

令和元年度八重垣神社祇園祭フォトコンテスト講評

◆総評

今年度もたくさんのご応募が寄せられました。誠にありがとうございました。今年度も水掛祭りの光景を写した作品と、子供さんや女神輿を写した作品が多く見受けられました。光を感じさせる作品や人物の豊かな表情を捉えた優秀な作品が多く寄せられました。

作品選考基準の中で、観光に使用できるかそうでないかが判断材料のひとつになります。光を感じさせるように水掛けシーン作品も例年多く寄せられています。また水の表情をシャッタースピードを変えて美しく綺麗な流れとして写された作品が毎年多く寄せられております。一方でピントが甘い作品も多く見られました。ISO感度を高くしてシャッタースピードを速くなるようにして写して行きます。ピントが甘いと作品に力がなく自分の思いが伝わりません。いつも注意したいところです。

この祭りに限らず、写しに行く時は撮影の目的、狙いを事前にしっかり持って写しに行くことは大事なことです。用意すべきカメラやレンズの種類、アクセサリが決まってきます。下準備が大事です。

◆作品講評

最優秀賞 『洗礼』 渡邊 安雄 様

水掛祭りの姿を神輿を入れながら光を感じさせるように写し撮った美しい作品に仕上げています。祭りの賑やかさや熱気が伝わるように望遠レンズでうまく写し撮りました。水掛の瞬間を逆光線になるような位置から写し撮った素晴らしい作品です。シャッタースピードを高速にして水掛の美しさを見事に写し撮りました。

例年この祇園祭を写しているようです。どの位置から写すのが良いか良く知って写されているようです。被写体を良く知ることが納得のいく作品につながってまいります。



優秀賞

『令和最初の連合渡御』

中根 英治 様



祇園祭の賑やかさを写し撮りました。こんなに多くの人達が参加しているんだ、それぞれの人達がいろいろな思いをもって参加していることを想像させることが出来ている作品です。

やや高い位置からこの作品を写しました。良くこの場所を見つけることが出来ました。作品作りに置いて写す場所は重要です。作品をみて画面上側の道路の部分は遠近感を出すには有効ですが、この作品は賑やかさを出したいわけでしょうから、上部の道路の分は入れずに写すとより賑やかさを強く引き出す作品につながり、個々の人の思いをより感じさせることにつながったでしょう。写すときにどのようなフレームで写すと一番良いか迷いが出ますがフレームを変えて写しておき後で比較して見ていきます。

優秀賞

『不意を突かれて』

岩下 信行 様

突然、水を掛けられ喜んでる少女の姿を写し撮りました。良い瞬間を写し撮りました。左の少女の顔の表情は水を掛けられたにもかかわらず喜んでおり、その瞬間を逃すことなくシャッタースピードを速くして水が止まったように水の流れを写し撮った優秀な作品です。事前にシャッタースピードを速くなるように準備しておかれたのかと思います。事前準備が功を奏しました。事前準備の良さが瞬間的な光景を写すことにつながりました。



写しに行く被写体を考えいつでも写せる体制をしておくことは、どの被写体を写すにも必要なことです。右側の少年の姿も水をかけてもらいたいような表情をしています。脇役として働いています。

優秀賞

『この町が好き』

竹内 誠 様



画面全体から喜びがあふれている作品です。子供みこしを担いでいる子供達、中心の女の子の笑顔が全体を笑いで包み込んでいる感じが良く出ています。

声掛けしながら写しているのかと思います。声をかけてカメラマンとの意思疎通が出来てくることで人物の一番豊かな表情を引き出して写すことが出来ます。

全体から祭りの雰囲気良く出ています。子供のころから祭りに参加し地域の人間として成長していく姿が感じ取れる作品です。

優秀賞

『祭り一番』

渡邊 良一 様

汗びっしょりになりながら神輿を担いでいる男性を、思い切って近づいて広角レンズで写したことで男性の姿を強力に見せることが出来ました。ちょうど大きく手を広げてくれた瞬間を逃すことなく写し撮りました。

広角レンズの特徴をよく知って写されています。カメラの機能やレンズの特徴を知って写すことで自分の思いが伝わる作品につながります。デジタルカメラになってからいろんな機能が盛り込まれています。機能を知ることで写し方も変わってきます。

大きく両手を広げ、よく来たな俺をうまく撮れよとばかりにカメラに顔を向けた瞬間を逃さずに写しました。スナップという言葉が早撮りということでもあり、この祭り男性の特徴を引き出した作品につながりました。



優秀賞

『アンリチャーどうした!』

菅谷 きぬ子 様



沢山の人が多い中で良くこの太鼓の側まで行って写されました。撮影は良い場所で写すことが出来るかで大きな違いが出てきます。また太鼓の側まで行って下から俯瞰するように写したことで、画面に動きが出て祭りの雰囲気盛り上げる作品にもつながりました。

左からの光線状態の中で写したことで人物の影が生まれ作品全体を立体的に見せることが出来ました。画面

を引き締めることにもつながりました。太鼓に手の影やバチの影も写すことが出来ました。撮影に置いて光をいかに読んで写すことが大事かを教えている作品です。写真は光です。

左の男性の踊っている様子がこの作品を盛り上げています。良い瞬間を写し撮られました。

入選

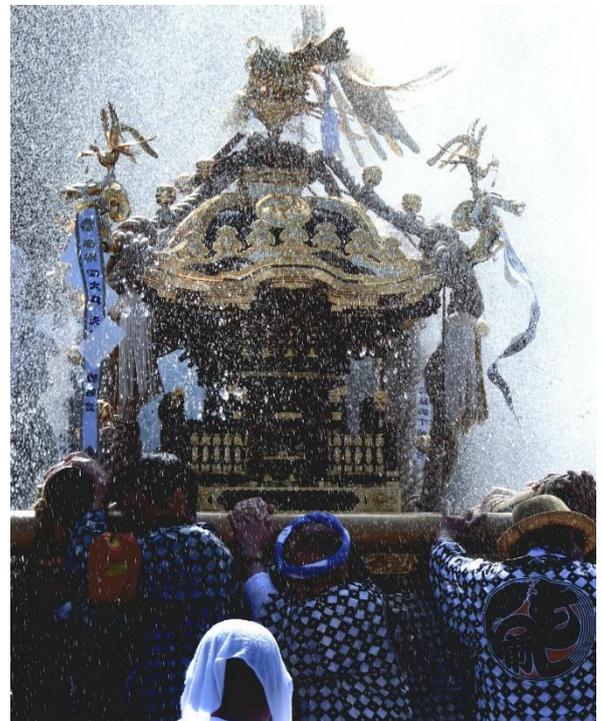
『夏まつり』

中村 陽子 様

望遠レンズで神輿を思い切って大きく写し撮りながら、迫力を引き出して写すことが出来ました。一斉に水を掛けた瞬間でもあり、逆光線で写したことで水の美しさと神輿の幻想的な作品にもつなげられました。

シャッタースピードがやや遅めで写していることで水飛沫がやや流れ気味になりました。もっと高速シャッタースピードで写すとより水掛祭りの美しさが出たでしょう。手持ちでの撮影でしょうから ISO 感度は高くして写して行きます。水掛祭りの神輿を迫力あるように望遠レンズで写した選択、その力量は見事です。

手前の白いタオルを頭に載せた男性の存在は悪くありません。神輿を静かに見ている雰囲気が感じられ、下側の暗い空間を効果的に見せることにつながりました。でも反面白が目立ちすぎるようにも感じます。やや暗めに画像調整して比較していくといいでしょう。



入選 『渾身の水かけ』 松本 隆信 様

写す視点を変えて水掛祭りの光景を写し撮ったところにこの作品の良さがあります。人物は後ろ向きの姿ですが足元にも水掛祭りの一端があり、違う視点でも祭りを楽しむことが出来ることを教えてくれています。足元には勢いよく跳ね上がる水の様子が良くとらえられています。また神輿を担ぐ男衆の後ろ姿を低い視点から狙い、祭りの熱気と動きを感じさせるように表現されました。どのように水掛祭りを写すのが良いのかしっかりと見つめた成果です。どの被写体でも被写体を良く知ることが、より満足が行く作品につながります。



やや右側が暗くなりました。ここの部分は縦位置構図で写すか、縦位置構図でトリミングしても良かったでしょう。水が飛び跳ねる姿に祭りの勢いを感じさせることにつながりました。

入選 『お囃子に乗り』 北村 芳夫 様



やや高い位置から女神輿を中心にしながら女衆の姿を、全体像を写し撮りました。女衆が静かに前に進んでいく姿が良くとらえられています。大勢の人達を入れたことで祭りの賑やかさや楽しんで祭りに参加している姿が写しだされました。作品を見たときに色々な人達の表情を追いながら作品を見る楽しみがあります。ある種の人間模様が大量の人達を入れて写すことで表現できてきます。祭りなどでは見学者など周りの人達を入れて写すことの大事さがあります。作品から何かを感じさせることが大事と考えます。物語が感じ

させることが出来るかが大事になります。なんだか分からないけど訴えかけてくる作品は良いです。そのために人物では豊かな表情が・・・。

バランスが取れた構図、光を読んで写して行く、空間の取り方も大事になります。余韻がある空間が大事になります。良い被写体であればフレーミングを変えて写して行きます。

入選

『あおぞら』

木村 茂男 様

両手を広げ豊かな表情の少年を写しました。主役の少年の顔の表情が自然体で、気負いのない表情を写し撮りました。後ろにいる少年や、左側にいる祭に参加している少年達に吸い込まれるようにカメラを構えて写し撮った味わいのある作品です。よし写すぞと言って写していない自然体で写した空気感が画面からにじみ出ています。



メインの少年の足元が写っていないのが残念です。足元まで入れて写す方がいいでしょう。入れて写すことで少年が体全体で喜んでいる姿がより出たでしょう。空も多いようです。何を写したいのかが分るように、よりポイントを絞って何枚も写して行きます。カメラを少し下側に向けて写すと少年の足元まで入りました。何ミリのレンズで写したかは分かりませんが、近づいて広くフレーミングして写しておきます。後でパソコンで自分の思いが出るようにトリミングをしてもスナップ写真の場合は許されます。

入選

『晴れ舞台』

山片 春樹 様

お父さん？に支えられながら神輿の上に乗る、扇を高く上げている赤ふんどしの少年を低い位置から写しました。気持ちが良い作品です。背景の空をバックにして写したことで気持ち



の良い作品になりました。空に向かって立っている姿が爽やかです。

写真は写した瞬間から過去になります。この作品ももう一度写したいと思っても写せません。家族写真など記録写真では写す瞬間を大事にします。赤ふんどしが効いています。良い被写体に出会うことが出来、自分の思いが叶った作品につながりました。左側の男性や少年の表情がやや硬いのが惜しまれます。声をかけて

写したいところです。声をかけることで被写体とカメラマンの意志のつながりが出来、豊かな表情を捉えることが出来てきます。カメラマンは話し上手であることが大事になります。

入選 『笑顔で担ごう』

丸山 力蔵 様

女八人衆をしっかりと正面から正直に写したことで、作品から強さを感じさせる作品につながられました。扇をそれぞれ持ち、笑顔の表情を写し撮った気持ちの良い作品でもあります。声掛けして写させてもらったのでしょうか。正面から写した力のある作品でもあります。人混みの中で良く皆さんに並んでいただき、豊かな表情を写し撮った印象的な作品です。自分の名前が入った扇でしょう



か？皆さん揃っての写真撮影も少ないでしょうから、この作品は八人衆にとっては貴重な写真で良い記念になり、差し上げたい作品です。記念写真はしっかりと正面から目線の高さで写すことで、人間が持っている豊かな表情を捉えることが出来てきます。これから神輿を担ぐのでしょうか？自然体で神輿を担いでいく前の表情を写し撮ったようにも見えます。

入選 『青い流水』

小高 常志 様



とてもきれいな水の流れを写し撮りました。空中を舞うような流れとして、水がはじけるような姿として、高速シャッターで写し撮った印象的な作品です。青い流れが神輿に降りかかるように撮られました。今まで見たことがないような作品です。ただ観光写真として使えるか考えてしまいます。

暗闇に光る青い流水は何か妖しい雰囲気が出ています。下から見上げるようにカメラを構え、水を掛ける瞬間を捉え、動き画面に作りました。作品を

見たときに動きがあったり奥行き感が出たり、空間を利用しながら静かさを引き出すことは大事です。動きのある作品にしました。

入選 『祭りの主役』 北澤 領作 様

ゆっくりと静かに神輿を担ぎながら練り歩いて進んでいく姿を正直に写し撮った作品です。ちょうど観光物産センターの前を進んでいく光景を写し撮りました。これから本番として練り歩く前の状態のようにも見えます。

左からの光線が神輿や男衆にあたり影が生まれ、作品を立体感を持って見せることが出来ました。ピントもシャープです。左側にいる世話役の方でしょうか、しっかり担いでいるか監視役のようにも見えます。祭りの一齣を写し撮りました。



入選 『女神輿いっせーの！』 前野 統 様

女神輿を女性たちで一斉に持ち上げている光景を写し撮ったことで、祭りは男衆だけでなく女衆が居ることで盛り上がり華やかさが出る祇園祭につながります。足にも力を入れ、手にも力が入った瞬間です。女衆が手前だけでも11人おり、息を合わせ、神輿を持ち上げている光景に、一体となって祭りに参加している姿にもなっております。後ろ姿ではありますが良いシーンを捉えられました。女衆のパワーと熱気を感じさせる作品でもあります。



入選

『祭礼を支えて』

坂尾 正純 様

この男性のように神輿を担ぐ人がいるから祭りが成立もします。神輿だこというのでしよ



うか、肩の所に盛り上がっている姿は頼もしい限りです。この大きさのタコが出来するには何年もかかります。肩のどこで神輿を担ぐかでタコの出来る位置が違ってきますが、裸の後ろ姿にたくましさを強く感じられます。匠瑛市の八重垣神社祇園祭の時に担ぐだけでなくいろんな場所でも担いでいるのでしょう。男の勲章のようなものです。

◆審査委員長プロフィール

氏名：大坪信二

略歴：1944年山梨県生まれ。

1962年日本光学工業株式会社（現(株)ニコン）入社。広島、大阪、オランダに2回、イギリスに駐在。

2001年ニコンカメラ販売(株)（現(株)ニコンイメージングジャパン）に出向。ニコン塾（現ニコンカレッジ）講師。

2004年定年退職。

現在はフォトカルチャー講師、写真グループ指導、生涯学習センター講師、写真の通信添削を行っている。

写真ジャンル：ネイチャーフォト、祭りが中心

写真展：2001年7月「テムズ川の休日」ニコンサロン bis、2006年10月「村の絆」ニコンサロン bis ほかグループ展多数

